

## 平成28年度第1回（第11回）外部アドバイザー委員会報告書

### 1 開催場所

倉敷市立短期大学 大会議室

### 2 開催日時

平成28年6月1日（水）13時02分～14時45分

### 3 出席者

#### ①委員：出席8名（欠席1名）

江島学長（委員長）、高田委員、山本委員、萱野委員、陶山委員、海本委員、佐藤委員、岸本委員

#### ②教職員：出席7名（欠席0名）

溝手保育学科長、大原服飾美術学科長、坪井図書館長、安達学生部長、眞次学生部主幹・峰尾事務局長・大森事務局主幹

#### ③オブザーバー：欠席1名（澤田企画経営室室長）

### 4 次第

#### （1）学長挨拶

- ・新任委員紹介
- ・委員及び教職員自己紹介

#### （2）報告・審議事項

#### （3）その他

### 5. 外部アドバイザーの意見

○意見1：市立短大の保育学科は学力が高くなければ入学できないとの認識がある。今後も頑張っていたきたい。地域に根ざした大学ということで模索中であると思うが、地域に就職という話は初めて耳にした。また保育学科の活動は新聞やニュース等で知る機会があるが、服飾美術学科に関してはあまり知ることがない。もっとアピールするべきではないかと思う。ジーンズや帆布の話など、今ブームになっていることであるし、魅力もあるので服飾美術学科からの情報発信をもっとしていただきたい。

○意見2：関心の持ち方にもよるので、私はジーンズウィークの記事など大変興味深く感じている。新聞記事の中に短大の活動を感じるものもある。

○意見3：児島のジーンズがメジャーになってきたのはここ最近のこと。歴史は数十年あるのだが、平成21年にジーンズストリート推進協議会が設立されて平成30年で10年を迎える。ここ2、3年が勝負どころである。今まで以上に発信しなければと考え、節目となる平成30年を大きな目標の達成点と考えて色々な活動をしている。「むかし児島は島だった」ということで平

成24年から、産業だけではなく歴史や文化も発信していこうと考えている。我々商工会議所は人・産業の振興も目指している。そのため児島の産業をブランド化していこうと考えている。児島と言えば学生服とジーンズであるがそれ以外の産業も面白くなってきている。縫製部会や織物部会もあり売上の低調であるが頑張っている。唐琴地区にある産業が少数ではあるが、逆に脇役として産業を押し上げている。産業観光を目指しているのだが、一度児島に足を踏み入れてみれば大変面白い、2カ所3カ所回ってみるともっと面白いと訪れる人に尋ねるとそう言っただけ。同じ製品関連の会社が複数あるからこそ選択ができ盛んになっているのではないかなと思う。平成30年までに何処まで出来るかこれからの3年間を頑張っていきたい。また、平成30年というのは江戸時代の1618年に吉備の児島が陸続きになったということで陸続き400年の都市。ジーンズストリートが出来て10年。大正7年、1918年に学生服第1号の服が出来て100年になる。事務局から平成30年で市立短大の設立50周年ということで事業を考えているということだが、短大との絡みも含めて地域の産業を新鮮な目で見られるのではないかなと思う。

○意見4：懇親会などで交流がある方の考えでは中心となるのはやはり観光である。産業との関わりもあるしこれからの児島の発展を考えると両方が大切と考える。産業観光とは見学と体験とショップであり、そこから独自のものが出てくる。この3つを揃えようということで平成30年のビジョンの中に含まれている。3つ一度に出来なくても順番がある。皆がそれぞれ関わる事が出来る、一部の会社のみがしているのではなく、皆が可能性を持っているのである。会社としても力を入れている。

○意見5：私は倉敷外語学院で日本語を教えており、アジアの生徒が大半である。彼らはファッションに大変興味があるのだが、買い物に行くとメイド・イン・ジャパンの製品が非常に少ないという。わざわざ日本に来て自分の国の製品を買うのも嫌なのでメイド・イン・ジャパンもしくはメイド・イン・コジマの製品をもっと作っていただきたい。自分も海外でお土産に持っていくのに畳縁で作ったキティちゃんのお財布や水引のサイドが畳縁になったものがとても日本らしくて喜ばれる。知り合いの結婚式に水引が畳縁のものを使っても大変喜ばれた。デニムもただのデニムではなく古風なものや組み合わせたり、真田紐と組み合わせたり、Tシャツにもプラスして何かを付けて若者らしいアイディアをオリジナルとして作成してみたい。それがよい観光資源となればと思う。そのアイディアを学生に考えてもらい、畳縁やデニムの企業とコラボして作品開発をしてみたい。知人が古い着物をバッグや人形にリメイクし外国人へのお土産にすると大変喜ばれる。その中にデニム生地を織り込んだりしている。ほんの少しのアイディアを盛り込み児島らしいものを作ってみてはと思う。

○意見6：地域連携ということで伺いたい。地域の枠組みをどう捉えるかという点であるが、服飾美術学科の企業との連携ということで10年ほど続いていてある程度形が見えてきたのではないかなと思う。林源十郎商店さんとのコラボとか倉敷備中新聞にある所とタイアップしてみたり児島の企業とのコラボであったりとバランスをとっているのかなと思う。これをどのようにシフトしていくか。高梁川流域との連携等、短大としては転換期であるのではないかと見ている。倉敷市は高梁川流域ということでどんどん広域化している。教育の枠組みでは児島という地域は実績

も予算も目に見えて出て来ていない。今のトレンドに合わせて広域指定高梁川流域での産業や資源、企業というように広げてみると予算がついたりマスコミに取り上げられることが出てくるのではないと思う。マスコミとしては狭い領域で学生数も少なくなっている。ジーンズジーンズと、そこに乗っかっているからといって我々マスコミが取り上げる訳ではない。私的な意見としては、次のトレンドの種はもう撒かれている。目に見えている形ではないが、100名いる学生の中で小さな種が根付いているので、小さいストライクをつなげていくと新たなものが出来る。それをまた掘り下げていくのが我々の仕事なので、我々もネタを探しており、それが記事になるかどうかは分からないが、「これはデニムだからなるでしょう」という訳ではなく、「このようなネタがあるのですが」との相談からいただけたら我々も切り口を考えて、それが新しいことであればワクワクするし、完成形として出されるのではなく、未完成のものから相談いただければと思う。質問としては地域の枠組みとしての考え方で服飾美術の企業連携の考え方だけでも良いのでお聞かせいただきたい。

- 意見7：一般的な事しか申し上げられないが、色々な形で短大と本校が協力し合っている。例えば学校評議員の関係や高大連携事業など。非常に良い影響を与え合っている。短大から先生方が来て授業して下さることも本校の教員、生徒にとってかなりなプラスになるのでぜひ続けていただきたい。本校にとってよい事はおそらく他校においても意義があると考えるので、短大の頑張りをもっと広げたい。機会があれば高大連携事業の中でどんどん広げていけばよいと思う。本校は総合学科という仕組みがあるが、岡山県内で総合学科を持っている高校は7校あり定期的に交流会と研修会を行っている。今年度は本校が主幹校となっているので短大に相談させていただいて一緒になって広域的な高校に広げられたらと思う。その流れの中で何か出来ればと思う。生徒募集に関して、10年ほど前に高等学校の学区募集の単位が大きく変化した。規模が小さな小学区制という岡山県下に10くらいのブロックがあって、そのブロックの中で基本的に受験しなさいという形態から大きく変わり、備中地区、倉敷から西は一つの学区のようになっている。倉敷市の大きな学校でいうと高梁や笠岡のエリアから中学生がどんどん進学してくる。そうした中であるので、倉敷市の見方も少しずつ変化しているのではないかと感じる。短大も近く市内と言わず広く短大の魅力をアピールされたらよいと思う。岡山方面も瀬戸大橋線を使えば十分、本校にも生徒が来ている。通学可能な範囲になるので経済的に公立短大のメリットは大きい。今は進学校であれ本校のような定時制の高校であれ経済的に厳しい生徒はかなり増えている。景気がいいのか悪いのか分からないが、増えていることは間違いなくて、そういった環境の中で進学して勉強したい高校生をぜひ御校で育てたいとのアピールを進学説明会に行くより直接高校へ行かれる方がいいのかと思う。高校側もあまり知らなくて間違ったイメージを持っている場合がある。我々高校が中学校へ説明に行っても全く違う、誤解をされている。それを説明して頑張っていることを理解していただける、いいイメージを持ていただける、受験生も集まる、そういう繰り返しを高校もしているのでは、頭に置いていただければと思う。その時、出口をアピールすることが重要。保育学科の場合は将来像がはっきりしているのだが、服飾美術学科の場合はどのような出口になるのか。今日の資料でデザイン系の大学に進学する学生がいることがわかった。短大で2年間学んだあと4年制大学に魅力を感じる学生は進学できるということをもっと発信してい

くとよいのではと考える。

- 意見 8：前回、耐震構想の話から短大の場所はここでよいのか。児島駅前に広い土地がある。海技学校跡地の 8,000 坪の内、4,700 坪を地元は無償譲渡する話もあり、残りはどうするかの話も日々変わっている。高大連携の話で、大学と高校はどの程度連携があるのか。大切な結びつきであると思うが。児島の活性化を考えた時、駅周辺に立派な大学があって市立の短期大学が 4 年制になる可能性もあると思うし、学風も変わってくる可能性もあると思うが、市内にいくつかある大学の中で児島の活性化を考えた時、あのエリアを若返らすというか、地元企業との繋がりを濃厚にする以外に方法がないのではないかと投げかけて波風を立てている。